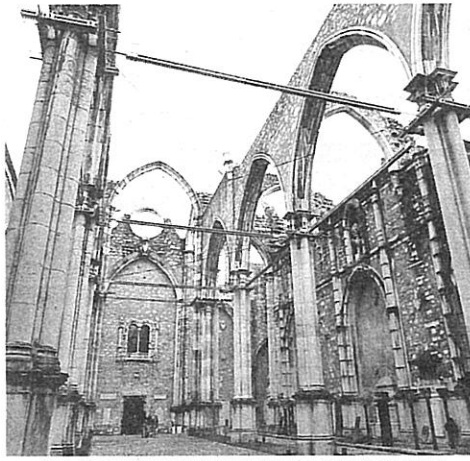


# 復興を導く高い指導力

## 第42回 [リスボンの教訓]



### 五百旗頭真の 大災害の時代



リスボン市内に保存されているカルモ修道院の遺構  
—ひょうご震災記念21世紀研究機構提供

3年半を超える連戦となったこの「大災害の時代」では、近代日本の三つの大震災を比較検討してきた。関連する大災害として、明暦の江戸大火や、明治と昭和の三陸津波なども視野に入れて論じてきた。しかし日本国内の災害ばかりでいいのだろうか。

日本ほど人口稠密な社会で、極部が大災害に襲われる国は稀なので、いきおい日本の例が中心となるが、もちろん諸外国にも大災害はある。とりわけ1755年のリスボン地震は、かつて栄華を誇った世界帝国ポルトガルの首都が大震災と津波、そして火災によって壊滅した悲劇として人類史に刻印を残している。西洋史において幾重にも巨大な意味を持った震災であったが、東日本大震災後に日本でもリスボン地震への言及がめだつようになった。大地震を機として衰退に向かったという両国の宿命の境遇の共通性を意識した故であろうか。

であるとするれば、それは誤解にもとづく興味であると言わねばならない。リスボン地震の危機管理も応急対応も、そして20

年に及ぶ復興についても、歴史的モザイクと云ってよいほどの見事なものだった。旧とは見違えるほどの立派な首都を創造したのである。リスボンは災い転じて福となす創造的復興に成功したが、その後、19世紀に入っ

てのナポレオン戦争で腰を折られ、長期的にオランダや英国など北方の新産業国に太刀打ちできなくなった。地震によって衰

えたリスボン地震から260年、阪神・淡路大震災20年である。共同で国際シンポジウムを開催することになり、河田恵昭・関西大教授とともに私はリスボン市を訪れた。11月1日の記念式典、2、3日のシンポジウム、ワークショップの間に、市内の博物館や博物館を訪ね、260年前の大災害を追体験することができた。リスボン地震とその復興を振り返り、そこから近代日本の大震災を見ておきたい。

#### 一閣僚に全権委任

ジョゼ国王は幸運にもベレン離宮にいて難を逃れたが、打ちひしがれて何もできず、都へ戻ることもしなかった。後にポ

西に切るフレートの裂け目がある。アメリカ大陸フレートがヨーロッパ大陸フレートの下へ潜り込むのではなく、東西にずれ

	リスボン地震	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生日	1755年11月1日	1923年9月1日	1995年1月17日	2011年3月11日
死者	6万人以上	10万5000人	6434人	1万5893人、不明2572人、関連死3000人余
災害の種類	地震・津波・火災	地震・火災	地震	地震・津波 原発事故
危機管理	A	D	C	A
応急対応	A	C	B	A
復旧	—	B	A	—
創造的復興	AA	A	A	—

リスボン地震との比較  
東日本大震災では、創造的復興が国の方針となり、5年目的

新しいまちを創造  
土台だけでなく統一基準の4階建てビルについても島がこ

を広場で吊し、軍隊を出勤させて治安を回復した。また食品や物資の価格を統制した。危機管理も応急対応も、今日から見てもアクラスといえよう。

今日、三陸沿岸の自治体は、決定的に安全なまちを創造すべく大土木事業中である。復興の手厚さは、国民が復興増税を受け入れたお陰であろう。宮城県南三陸町のように、住居はすべて丘の上に高台移転し、平野部に10以上の人工丘を造り、そこに商店街などを置くまちもある。100年に一度の津波対応を基本として

いおきへ、まよと、ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長、熊本真立大理事、日本政治外交史